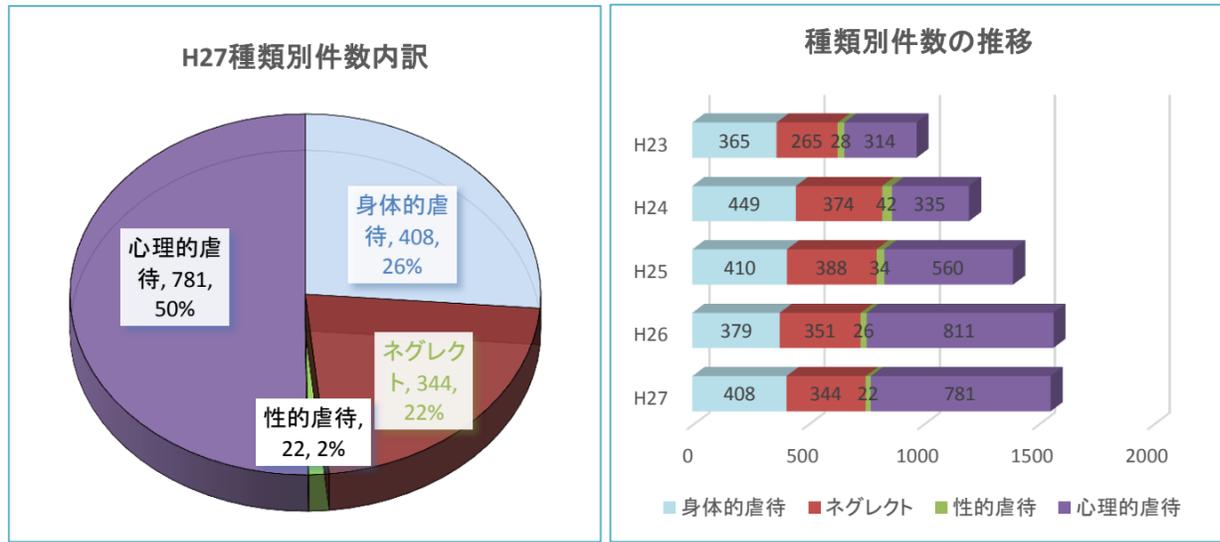
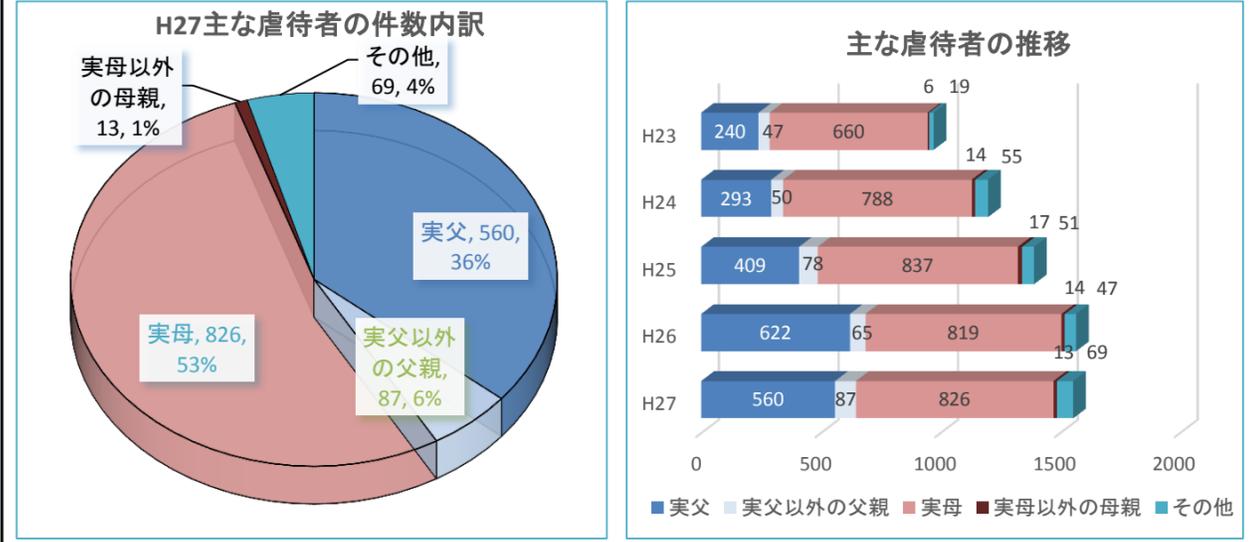


虐待の種類



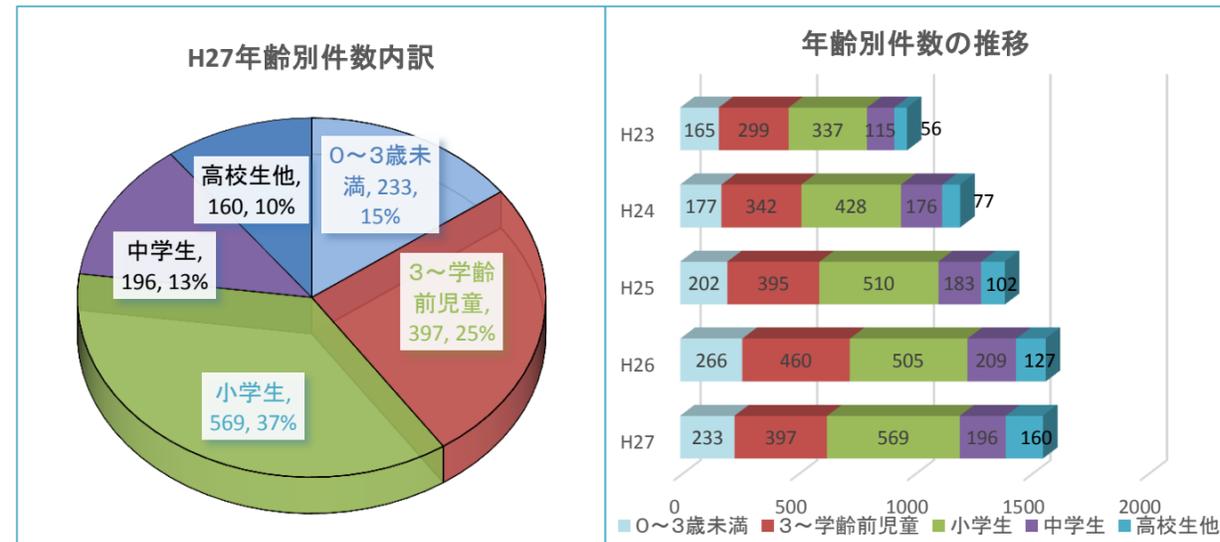
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較して「心理的虐待」が種類別件数の約半数(50%)を占める状況に変化はないが、「身体的虐待」が29件増(7.6%増)となっている。

主な虐待者



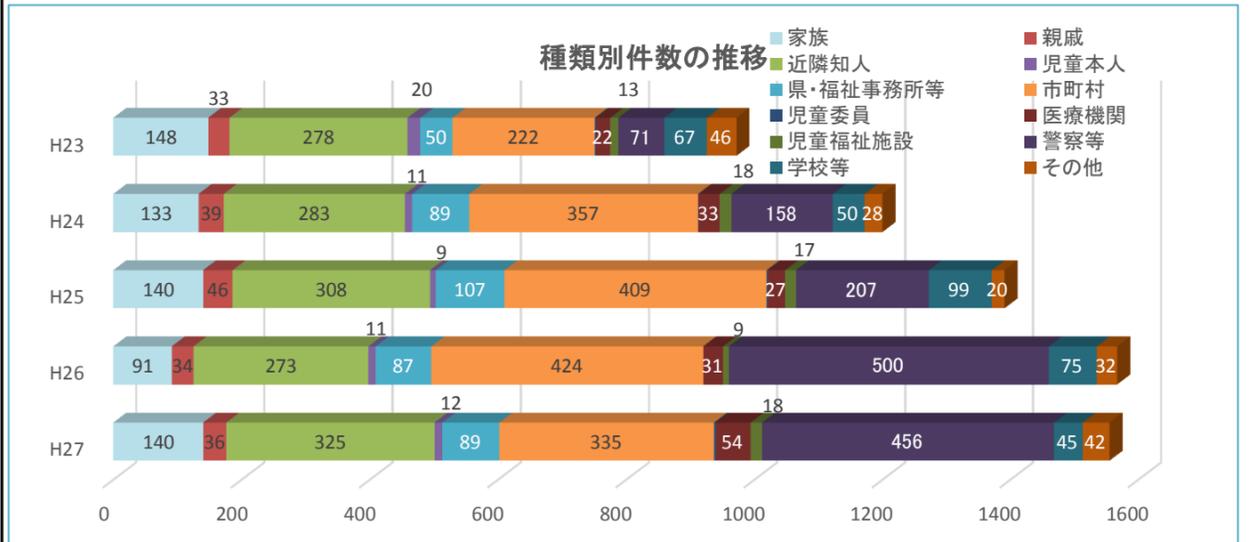
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。前年度と比べて「実父」による虐待の件数が62件減(10.0%減)となっている。

被虐待児の年齢



全体の40%が就学前の児童である。前年度と比べ「小学生」「高校生他」の件数が増加し、「小学生」の児童は64件増(12.7%増)、「高校生他」の児童は33件増(26.0%増)と増加率が大きい。

虐待通告の経路



関係機関からの通告では「警察等」及び「市町村」が多く、関係機関以外では「近隣知人」による通告が多い。「警察等」及び「市町村」からの通告件数は前年度と比べて各44件減(8.8%減)、89件減(21.0%減)と関係機関からの通告件数の減少がみられる。その一方で、「家族」と「近隣住人」等の関係機関以外からの通告が各49件増(53.8%増)、52件増(19.0%増)と増加がみられる。